人権なら
●ひと・まち・生き活き
2016年1月1日
第61号
NPOなら人権情報センター

奈良阪をフィールドワーク

京都・八幡市人権教育推進協議会が研修

京都府八幡市人権教育推進協議会が12月13日、『「癩(らい)」者の救済と信仰』をテーマに奈良阪を探索した。コースは奈良豆比古神社－奈良街道－般若寺－植村牧場－般若野五三昧地－北山十八間戸－東之阪町－奈良町北の関所跡(善鐘寺門前)。案内は吉田栄治郎・天理大学講師。NPOなら人権情報センターが依頼され、企画した。

奈良豆比古神社(**写真**)には、春日王が癩に罹患。この神社の奥の森に隠れ住み、2人の子、浄人王と安貴王がその世話をした。浄人王はこの地に止まり、その子孫が奈良阪村を作ったとの伝承が残る。

浄人王は架空の人物だが、浄人は奈良～平安時代に寺院の雑務を務めた者の呼び名で、「癩」者の世話をするために寺院から派遣されたと考えられる。

「癩」者が居住した地域・施設を見学

奈良豆比古神社では、10月8日に国の重要無形民俗文化財指定の翁舞が奉納される。翁舞は祝福芸能の一種。この芸能から能・狂言が生まれる一方、被差別民の芸能である木偶(デク)廻しなども生まれた。

般若寺は鎌倉時代中期に西大寺の僧・叡尊によって再興。楼門は鎌倉時代の建造で国宝。十三重石塔は宗から渡来した石工、伊行末が作った国の重文。

北山十八間戸(**写真**)は鎌倉時代に僧忍性が建立した救「癩」施設とされるが、諸説ある。現在の建物は江戸時代初期に再建されたとされる。明治の初めまで「癩」患者が居住。京街道の道端の石に座って物乞いをしたり、体の動く患者は奈良町や大和一国に出て物乞い(勧進活動)を行い、生計を立てた。

隣接する被差別部落では、北山十八間戸の保存活動や、人権のまちづくり運動を行ってきた。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

中企協が確定申告説明会

奈良県中小企業者協会は12月11日、上但馬団地解放会館で確定申告説明会を開催した＝**写真**。

山下力・会長があいさつ＝**写真**。8期32年の県会議員としての政治活動への支援に対する謝意を述べたあと、安倍政権の経済政策を批判。年金運用の失敗で8兆円を損失。1億円以上の企業に対する法人税を引き下げ。一方で、赤字を抱えた中小企業からはさらに税金を取ろうとしている。今後、国民の怒りに晒される、と述べ、会員の結束を呼びかけるとともに、スタッフ一同、全力で頑張るとの決意を語った。

このあと、南岡彰男・指導員が「確定申告のためのチェックシート」に沿っての注意事項の説明と、申告相談の日程を示した。 **(2面に相談会の日時など)**

確定申告相談会の日時など

奈良県中小企業者協会は2月４日から19日まで、支局会員を対象に15年分「確定申告相談会」を開催する。相談会の日時、会場、対象支局は次の通り。

日	時　間	会　場	対象支局
4（木）	午前９時半～午後３時半	石ノ上コミュニティセンター	石ノ上・市場、御経野、嘉幡
5（金）	同上	同上	同上
8（月）	午前９時半～午後３時半	杏南町老人いこいの家	奈良
9（火）	午前９時半～午後３時半	河合町心の交流センター	河合・上牧
10（木）	午前９時半～午後３時半	川西町東人権文化センター	川西
12（金）	午前９時半～正午	五條市人権総合センター	五條
	午後２時半～午後5時	西部文化センター（市場隣保館）	大和高田
15（月）	午前９時半～午後３時半	西田中町ふれあいセンター	大和郡山
16（火）	同上	同上	同上
17（水）	午前９時半～正午	若井人権交流センター	平群・生駒
18（木）	午前９時半～午後３時半	三宅町上但馬団地解放会館	三宅・田原本・吉野郡
19（金）	午前９時半～午後３時半	三宅町上但馬団地解放会館	山添・宇陀・高取・御所・直轄・その他の地区

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

巻向周辺をフィールドワーク

河合町人権学習講座で大和国の歴史を学ぶ

河合町人権学習講座が11月20日にあった。「巻向周辺を歩く」をテーマにフィールドワーク。コースは箸墓－ホケノ山古墳－慶運寺（隅田検校頌徳碑）－君墓（岩田墓）－広読寺跡－「麺ゆう館」。案内は吉田栄治郎・天理大学講師が務めた。

この辺りは、東に三輪山を見て、南北には上ツ道が通る。近年、古墳時代の土器や、纏向遺跡の発見があり、邪馬台国畿内説の根拠として注目される。

ホケノ山古墳（**写真**）は墳丘面に葺石（ふきいし）を並べた最も古い前方後円墳。3世紀前半から中ごろにかけ築造されたと考えられる。

慶運寺（**写真**）には大和国最後の検校（けんぎょう）だった隅田検校の墓所がある。墓碑によれば、文久元年（1861）に失明し、当道座に入る。座頭名は三室一。その後、慶応3年（1867）3月に32歳で検校職に就任する。視覚障害者（盲人）の組織、当道座は南北朝期には存在したと考えられる。近世になり、検校が最高官位で、別当・勾当・座頭があった。

幕末の大和には、八木組、郡山組、桜井組、宇陀組、五條組、南都組が存在した。明治4年（1871）に廃止された後、紡績業や、製粉・製麺製造などに携わり、地域経済の発展に寄与した。

「幕末になると、結婚や葬儀、出産、元服、堂供養などの際には祝儀が与えられていた」など、地域社会の関係がどのように成り立っていたのか、興味深い。

君墓には、三昧聖（さんまいひじり）の集落があり、火葬などを行っていた。広読寺跡も西大寺を復興した僧叡尊によると、付近に非人宿があったことがわかる。

大和国では興福寺・東大寺・薬師寺・西大寺・額安寺・竹林寺・大御輪寺などの寺院の門前に「癩」罹患者を中心とした非人宿が作られている。

戦国時代になって、「癩」罹患者の世話から離れ、集落の呼称を「～宿」から「～夙」に変化させた。三輪には大きな夙集落が現存する。「麺ゆう館」では、素麺と牛頭天皇信仰の話を聴き、素麺を試食した。

地域社会の歴史を探る

第5回県民歴史講座で法隆寺フィールドワーク

県立同和問題関係史料センターの第5回県民歴史講座が11月10日にあった。「地域社会の歴史・結びつきを探る」をテーマに法隆寺周辺をフィールドワーク。コースは常楽寺跡－三町・五丁町（**写真**）－東里－極楽寺郷墓－天満池・斑鳩神社－西里－桜池－龍田神社－並松－法隆寺参道。案内は同センターの穴田敏之さんが務めた。

この地域は大和川の合流地点に位置する。古代から水運・陸運の要衝で、法隆寺を核とした郷が広範囲に形成された。門前町郷の「東里」「西里」には、多くの職能集団や、法隆寺を支える人々が集落を形成。「刀禰（とね）」と呼ばれる人々が自治にあたった。

南北朝期には常楽寺に市場が開設され、「三町」「五丁町」へと市場町が形成された。その街並みを抜け、極楽寺郷墓へ。入口に供養塔がある。南側に荼毘所があったとされる。三昧聖と呼ばれる遺骸の火葬や埋葬に関わった人々がいた。

天満池・斑鳩神社－桜池（溜池）・藤の木古墳へ。周辺には陰陽師の集落が存在し、中世には「国符後ノ乞食」と呼ばれ、久世舞などを行っていた。

竜田神社には、大和猿楽四座の一つ「坂戸座」（金春流）発祥の碑がある。神社の「渡御祭」では、近隣の被差別部落が先払いを務めた。参道に風根村と下之庄村の草場の境界が引かれた史料が残る。

◇　　◇

史料センター歩み振り返る

第6回講座で井岡康時・前所長が講演

第6回講座は12月1日、県人権センターであった。井岡康時・前所長が「部落史の見直し」からの問い－史料センターの歩みを振り返って、と題して話をした。

1991年に「部落史の見直し」を提案。1993年12月1日に同センターが開設。22年が経過し、社会的な差別の問題を考えるとき、人間の作ってきた歴史や社会のありよう、人間そのものの理解を深めることが重要と考えるようになった。

「地域社会で蓄積されてきた信仰や儀礼、風俗や習慣など、いわば文化領域において住民が結んできた多様な諸関係が、現代社会の性格を規定するうえで大きな影響力を持つ。社会的差別はこうした文化の領域に根ざした現象である」。

社会的差別は文化の領域に根ざした現象

一方で、「社会的差別を政治的に解決できるのか」と設問し、全国水平社結成期に労働運動や農民運動の高揚を背景に選挙権獲得運動が展開され、水平社も態度が迫られた、として、岩崎水平社・山本八郎の見解や駒井喜作、栗栖七朗の発言を紹介。彼らは「法や政策、制度的な領域や政治参加に否定的だった」。だが、水平社はその後、政治的に傾斜していく。

また、「被差別民の歴史や現状に関する国際的な研究が進んでいる」として具体例を紹介。スペイン・フランス国境のピレネー山脈沿いに居住するスペイン語でアゴテ、フランス語でカゴと呼ばれる被差別民、エチオピアのカファ地方に居住する農民カファと、かつて狩猟で暮らしを立てていたマイノリティのマンジョとの差別－被差別の関係、エチオピアでは、鍛冶屋、職工、土器作り、皮なめしといった職能集団や狩猟集団がマイノリティとして蔑視され、対等な関係を許されていない例など、様々な差別のありようを説明した。

最後に、これからの教育・啓発においては、差別の問題を人間（人と人や地域社会との関係）の問題として理解を深めていくことが大切である、とまとめた。

戦争したらあかん！

平和を守り、紡ぎ続けるために

「戦争をさせないワーカーズ」は12月19日、田原本町青垣生涯学習センターで『平和を守り、紡ぎ続けるために』－思考、そして行動、をテーマに集会を開いた＝**写真**　。

この日、講演を予定していた「シールズ関西」の齋藤凛さんが体調不良で参加できず、9・18渋谷街頭で発言する齋藤さんの映像を鑑賞。12月20日の京都・円山公園での集会・パレードへの参加を呼びかけた。

集会は、戦争をさせない奈良1000人委員会中和の呼びかけ人、渡辺哲久さん（**写真**）をコーディネートに「ピープルファースト奈良」の中村清司さんが「平和を守り、命を守ることが福祉を守る」と述べ、戦争時の沖縄の写真を紹介。「だから、戦争はあかん！」と語った。さらに、ナチス・ドイツの「T4計画」を描いたNHKドキュメント映像を映し、多くの障害者が「治癒の見込みがない。社会の役に立つのか」と選別され、「シャワー室（ガス室）」に送られ、虐殺された。「精神障害者や知的障害者約20万人が殺された」「恐ろしいのは、この虐殺を医療の専門家が積極的に行ったことだ」と批判し、解説した。

このあと、安保法制反対活動などが報告された。

発言し続け、行動を積み重ねていくことが大切

「NPO法人アクティブセンターうだ」の廣瀬朋さんは、宇陀市で障害者の支援をする施設職員として働きながら、沖縄・辺野古に通い、「新基地建設反対」の活動をしている。ゲート前やカヌーでの海上抗議活動にも参加。その動画や写真を紹介しながら話をした。

最後に、参加者と意見交換。渡辺さんが「安倍首相は反対意見や抗議を力ずくで押しつぶそうとしている。空しさや無力感もあるが、私の気持ちはこうだ、私はこう思う、と発言し続け、行動を積み重ねることが、人とつながり、共感を得ていくと集約した。

編集後記　☆★☆★☆★☆★☆★☆★☆

2016年を迎えた。昨年は憲法違反の戦争法が強行成立した。多くの人々の反対の声を無視した暴挙で、人々は民主主義って何だ、と問い続けた。今年はその民主主義を民衆の力で再生していかねばならない。私たちは間違ったメッセージに流されないこと。無批判に追随しないこと。自らの頭で考え、判断し、行動していくことが大切だ。これから続く世代のことも考えながら、持続可能な社会を築いていく必要がある。戦争は紛れもなく、多くの犠牲を伴い、後々までも禍根を遺す。激動する世界や、政治の動きを注視しながら、戦争への道を断ち切るために行動していきたいものだ。

催　し　案　内

■**第31回架け橋美術展**　1月15日（金）～17日（日）・午前10時～午後5時（17日は午後3時）、桜井市役所玄関ロビー・2階大会議室（近鉄大阪線・JR万葉まほろば線桜井駅北西徒歩15分）。ハンセン病回復者の方たちとのつながりを求めて。入場無料。主催は架け橋　長島・奈良を結ぶ会など。問い合わせは桜井市人権施策課：0744-42-9111（内線561）。

ニュースレター「人権なら」
発行：NPO法人なら人権情報センター
〒636-0223
奈良県磯城郡田原本町鍵301－1
TEL:0744-33-8585／FAX:0744-32-8833
E-mail：info@nponara.or.jp
http：//www.nponara.or.jp/